



IPv6グローバル割り振り・割り当てポリシー
～OPEN ISSUES～

伊藤 公祐

IPv6普及・高度化推進協議会

JPNIC IPアドレス検討委員

2001年12月6日



Interim Policyドラフト

- APNIC, RIPE, ARINの各ミーティングを経て、年内にInterim Policyをまとめることになり、現在、各地域のIPv6-WG/アドレスSIGチェアらの専門化チームによるドラフト作業中
- このポリシードラフト内に残るいくつかのポイントがOPEN ISSUEとして挙げられ、意見収集が求められている



OPEN ISSUES

1. 初期割り振り、追加割り振り条件を決定付けるHD-Ratioの指標について
2. 初期割り振り条件、776サイト(/48)を割り当て需要を申請時に正当化できる点について(/36に対するHD-Ratio指標)
3. 4ビット(Nibble)バウンダリ毎のPrefixについて
4. 既存のsTLAホルダー移行について
5. 「Conservation」の言及について



1) HD-Ratioを指標とする

- ARINではUtilizationベースのポリシーを継続することで良いと考えている
 - 少なくとも、HD-Ratioから導き出されるUtilization変換があるべき
- HD-Ratioの適用はAPNICコンセンサス
- RIPEでは、シンプルなUtilization(%)の適用提案があったが、結論には至らなかった



2) 初期割り振り条件

- APNICコンセンサスでは、/36の取得を正当化できる(HD-Ratio0.80を適用した際、776 個の/48のサイトを割り当てる)ニーズがあること
 - ドラフトでは、申請時(immediately)にニーズがあることとなっている
 - これではちょっと厳しすぎないか？
 - 「申請から2年以内のニーズ」と緩和しては？



3) 4ビット (Nibble) バウンダリ

- APNICコンセンサスでは、日本からの提案にあった「/28>/24という提案は、追加サイズが急激に大きくなりすぎるといふ」といふことから、1ビットずつ短くしていくことになった
- RIPEでは、強くNibble Boundaryに沿った割り振りの希望があつた(AAAAを考慮したときのオペレーションの簡素化に役立つ)
- ドラフトでは、「Nibbleバウンダリに沿っていることは望ましいが、Criticalではない」といふコメントに留まっている



4) 既存のsTLAホルダの移行措置

- ドラフトでは「リザーブされている/29をInterim Policy適用と同時に割り振る」としている
- /32に合わせるために、2年程度の移行期間を設け、/32までアップグレードとオリジナル割り振りの返還の申請をしてもらう。既存のサイトには、古いアサインを取り除くのに5年程度の移行期間を設ける、というコメントがある



5)「Conservation」

- IPv4時代からの基本概念である「保存」について、ドラフトでは保存の概念を「効率 (Efficiency)」とし、今までの80%ルールにつながるような言及を無くした
 - アドレス空間の無駄遣いはいけない、という言及にしている
- RIPEでは、「No more conservation」という雰囲気強い



最後に

- ご意見・コメントをお願いします。
- グローバルMLでのコメントを是非お願いします。
- グローバルML:
`global-v6@lists.apnic.net`